

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	SS0T4482
2. 授業担当教員	河合 光利			SCOT4482
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	保育実習指導Ⅰで学んだ実習現場の知識及び保育実習への基本的姿勢・基礎知識を基盤として、「保育実習Ⅱ」に必要な専門知識・保育技術及び関連知識を身につけることをねらいとする。現場での実習の充実を図るため、実習の目的や内容を明確にし、言語化、文章化ができるよう事前準備を行う。具体的な取り組みとしては、保育実習Ⅰ(保育所)の総括・評価を行い、自己の新たな学習目標・課題を明確化する。また、責任実習に向けて指導計画の立案とその相互批評を行い、計画を基にした模擬保育などにより実践力を身につける。実習後には振り返りを行い、保育の担い手としての心構えを今一度明らかにする。			
8. 学習目標	「保育実習指導Ⅱ(保育所)」が終了した時点で、下記目標の達成が期待される。 1. 保育実習の意義と目的を理解し、説明できる。 2. 保育実習Ⅰや他教科の内容との関連性を理解し、説明できる。 3. 保育実習Ⅰの総括・評価を通じて保育実習Ⅱに向けた自己の新たな学習目標・課題が明確化される。 4. 実習に直結する具体的な知識・技能を体得し、保育の実際への理解を深め、実践することができる。 5. 責任実習に向けて指導計画の立案演習と模擬保育により、実習への実践的能力が高まる。 6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育を総合的に省察する能力が身につく。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	【アサイメント】 1. 保育実習Ⅰでの成果を踏まえ、次の実習に改善すべき点をまとめ、授業に臨むようにする。 2. 授業内で配布するワークシートおよび指導案を仕上げ提出する。 【レポート】 1. 保育実習Ⅱに向けた自己の課題と改善策について 2. 保育士に求められる役割について、何をすべきかを考える			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】適宜、資料を配布する。 【参考文献】 厚労省『保育所保育指針解説』フレーベル館, 2018 関口はつ江編『学びをいかに保育実習ハンドブック』大学図書出版, 2018 保育実習Ⅰ(保育所)の「実習日誌」 その他、適宜資料を配布する			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 授業に対する参加態度(出席状況、授業に臨む姿勢、個別学習・グループ学習における課題への取り組み)は意欲的であったか。 2. 提出物の期日は順守できたか、取り組みの内容は十分なものであったか。 3. テーマに沿って分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 ○評定の方法 1. 授業態度(欠席、遅刻、途中退出含む) 50% 2. 提出物(提出期限厳守)とその内容 20% 3. 期末レポート 30% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。			
12. 受講生へのメッセージ	保育実習Ⅱでは、保育実習Ⅰで学んだことをもとに、さらなる発展をさせていく必要があります。保育活動を展開するうえでは、何といっても子どもの理解ができなくてはなりません。今、目の前にいる子どもは何を考え、何をしたいのか、表情やしぐさ、言葉や行動から読み取っていくことが必要です。しっかりと「子どもを観る目」を養うことが求められます。その上で、保育の活動を選択していきます。この授業では、保育者主導の保育ではなく、子ども主体の保育を作り上げていくことができるようになることを目指していきます。			
13. オフィスアワー	別途、通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	授業概要と進め方、望ましい学習態度について 保育実習Ⅰの省察から各々の課題を描き出す		事前学習	自己の実習記録を読み返し、問題点を拾い上げてくる。
			事後学習	保育実習Ⅰの省察から、次回実習の課題を明確化する。
第2回	保育実習Ⅰの省察を発表する(1) グループの作成、各自の必要とする課題と内容について 討議を行い、グループ内でまとめる		事前学習	自身の実習評価を振り返り、今後の実習に向けた自己課題をまとめてくる。
			事後学習	グループ討議から、特に重要と思われる課題について解決方法を探り、記録にまとめる。
第3回	保育実習Ⅰの省察を発表する(2) 第2回授業をもとに、グループ単位での課題解決の発表を行う		事前学習	各グループでの発表が行えるよう内容をまとめておく。
			事後学習	各グループでの発表を聞きながら、自己課題の解決に導く方法をまとめ、次回の実習に活かせるようにする。

第4回	保育所の一日を振り返る 登園から降園まで、保育所の一日の流れを詳細に振り返り、保育者のかかわりについて理解を深める	事前学習	保育実習Ⅰの記録から、保育所の一日の流れを振り返り、整理してくる。
		事後学習	保育環境のあり方、保育者の具体的な援助方法など、自身の新しい気づきをまとめ、次回実習のイメージを作る。
第5回	保育環境の構成と部分・責任実習の構想(1) 各年齢の子どもの生活の姿をイメージするとともに、それに応じた保育環境に構成、活動の選択ができるようにする	事前学習	一般的な各年齢の子どもの発達の姿とその生活について参考資料を基に必要な要件をまとめる
		事後学習	各年齢の保育に必要な環境構成、活動の選択、基本的な援助方法の詳細を記録としてまとめる
第6回	保育環境の構成と部分・責任実習の構想(2) PDCA サイクルをベースにグループ活動として、登園から降園までを想定した保育活動を指導案として描き出す	事前学習	部分・責任実習における指導案作成を目標に、グループ活動として行ってみたい活動を選んでくる。
		事後学習	指導案の作成の注意点を踏まえながら、グループ単位で指導案を作成する。
第7回	福祉専門職支援室より保育実習Ⅱに対する直前指導 保育実習Ⅱにおける注意点を確認する グループ学習としての指導案を作成する	事前学習	指導案としての精度を上げるため、グループ内で検討を進め、模擬保育として発表できるようにする。
		事後学習	模擬保育として発表できるよう準備を進める。
第8回	部分・責任実習を前提とした模擬保育の展開(1) 登園から降園まで、指導案をもとにした各グループの模擬保育(発表)を行う。	事前学習	各グループ内で指導案を精査し、役割を決めるなど、模擬保育を行うための準備をする。
		事後学習	発表後の質疑応答などから、各グループ単位で活動の省察を行い、課題をまとめる。
第9回	部分・責任実習を前提とした模擬保育の展開(2) 登園から降園まで、指導案をもとにした各グループの模擬保育(発表)を行う。	事前学習	各グループ内で指導案を精査し、役割を決めるなど、模擬保育を行うための準備をする。
		事後学習	発表後の質疑応答などから、各グループ単位で活動の省察を行い、課題をまとめる。
第10回	障がい児保育について 統合保育とはどのようなものか、そのメリット・デメリットをモデルケースから検討し、併せて、インクルーシブ保育についても理解する	事前学習	保育現場における障がい児保育について、統合保育、インクルーシブ保育とはどのようなものかを調べてくる
		事後学習	モデルケースをもとにした討論から、障がい児保育の課題についてまとめ、次回実習に活かすようにする
第11回	実習日誌の書き方の再検討 実習記録の意義を振り返るとともに、記録上の注意点について確認する	事前学習	保育実習Ⅰでの実習日誌の記録をもとに、再度、記入上の注意点について振り返りを行う
		事後学習	保育実習Ⅱに向けて、実習日誌に必要な項目を再度、確認し、漏れなく記入できるようにする。
第12回	保育実習Ⅱの振り返り(1) 各グループで話し合った実習内容の発表、質疑応答、考察による体験の共有化を図る	事前学習	保育実習Ⅱを振り返り、自己の省察を具体的に挙げてみる。
		事後学習	グループ内で自己の省察内容を共有し、場面ごと、対象ごとに整理し、発表準備をする。
第13回	保育実習Ⅱの振り返り(2) 各グループで話し合った実習内容の発表、質疑応答、考察による体験の共有化を図る	事前学習	グループ単位で、前回授業業の内容を整理しておく。
		事後学習	グループ単位の発表ができるように内容を整理しておく。
第14回	保育実習Ⅱの振り返り(3) 各グループで話し合った実習内容の発表、質疑応答、考察による体験の共有化を図る	事前学習	各グループの発表を聞きながら、新たな気づきをまとめる。
		事後学習	発表から、様々な保育のあり方があることを理解するとともに、自己の目標を明確にする。
第15回	保育者の専門性と求められる倫理観 子どもの権利条約の理解 これからの保育について	事前学習	参考資料を基に保育者の専門性と倫理観、子どもの権利条約について調べてくる。
		事後学習	保育士に必要な事柄をまとめ、実際の保育に活かせるようにする。